

横浜市立 朝比奈小学校

学校評価報告書

(平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①全学級で「学校の約束」をもとにした学習環境を整え、落ち着いた雰囲気の中で授業を行う。②全学級でドリル・スキルに取り組み「あさひなパワーアップ」の時間を設定し、読む・書く・計算する力の確実な定着を図る。③体験的な活動による実感を伴った理解や、言語活動による表現力・コミュニケーション能力の向上を意識した授業展開を図る。	①「学校の約束」を共有し、落ち着いた学習環境で学習に取り組めた。②スキルアップの時間として児童に定着している。③全教科の学習で言語活動に取り組む、表現力の充実を図るとともに、算数科を中心に思考力・判断力の育成に努めた。児童と教師だけでなく児童間のコミュニケーションによる深め合いをすすめていく。	B	確かな学力	①全学級で「学校の約束」をもとにした学習環境を整え、落ち着いた雰囲気の中で授業を行う。②全学級でドリル・スキルに取り組み「あさひなパワーアップ」の時間を設定し、読む・書く・計算する力の確実な定着を図る。③体験的な活動による実感を伴った理解や、言語活動による表現力・コミュニケーション能力の向上を意識した授業展開を図る。	①大半の学年・学級で年間を通して落ち着いた環境で授業が行えた。②パワーアップはスキルアップの時間として定着している。授業時間数確保に向けてモジュールを活用するには、この時間の質を高めることができるかが課題である。③重点研究で算数科指導を取り上げ、言語活動を通じた資質・能力の育成に取り組んだ。	B	確かな学力	①「学校の約束」をもとに全学級で共通した学習環境をつくり、落ち着いた雰囲気の中で授業を行う。②「あさひなパワーアップ」の時間を週1回設定し、学年ごとに共通のスキル・ドリルを行い読む・書く・計算する力の確実な定着を図る。③体験的な活動による実感を伴った理解や、言語活動による表現力・コミュニケーション能力の向上を意識した授業展開を図る。	①学習環境づくりは概ねできていた。資質・能力を意識した授業展開も見られるが、知識・技能主体の指導も見られる。②スキル・ドリルを集中して行ったことで学習内容の定着が見られた。③言語活動については目的・方法・評価の面からもさらに充実を図り、児童の深い学びにつなげる必要がある。	B
豊かな心	①年間を通した「あおぞら」(たてわり活動)で、児童がお互いを思いやる心や自他の関わりについて学べるようにする。②道徳の授業や「人権標語づくり」、「人権講話」等を通して児童の人権意識を高める。また、人権授業参観などを利用して保護者との連携を図る。③朝読書、読み聞かせ、お話会や学級文庫の宅配などを通して児童の豊かな感性を育む。	①フィールドワークなどの活動で、6年生児童が低学年児童を思いやる活動場面が多く見られた。②授業公開は1年生保護者の参観が多く、家庭との連携を図る良い機会であった。③保護者・地域の協力で実施している読み聞かせやお話会は児童の関心が高く、感性を育むことに有効であった。	B	豊かな心	①年間を通した「あおぞら」(たてわり活動)で、児童がお互いを思いやる心や自他の関わりについて学べるようにする。②道徳の授業や「人権標語づくり」、「人権講話」等を通して児童の人権意識を高める。また、人権授業参観などを利用して保護者との連携を図る。③朝読書、読み聞かせ、お話会や学級文庫の宅配などを通して児童の豊かな感性を育む。	①フィールドワークなど「あおぞら」の活動で、高学年児童が低学年児童を思いやる活動場面が見られた。②道徳の授業公開は他教科等と比べ参観者が少ないように感じた。周知方法を工夫したい。③保護者・地域の協力で実施している読み聞かせやお話会や学級文庫の宅配などを通して児童の豊かな感性を育む。	B	豊かな心	①年間を通した「あおぞら」(たてわり活動)により高学年はリーダーとして、中・低学年は小集団の一員としてお互いを思いやる心や自他の関わりについて学べるようにする。②特別の教科道徳や「人権標語づくり」、「人権講話」等を通して人権意識を高める活動の充実を図る。また、人権授業参観などを利用して保護者との連携を図る。③読書活動を推進し、児童の豊かな感性を育む。	①「あおぞら」のフィールドワークでは上級生が下級生を思いやる場面や下級生が上級生に協力し、お互いの力を合わせる場面が見られた。②家庭との連携を図る上で、人権授業参観等に対する保護者の関心をより高める必要がある。③保護者・地域の協力で実施している読み聞かせやお話会は児童の関心が高く、有効であった。	B
健やかな体	①スポーツデーやマラソン大会、長縄集会を設定し、運動に親しむ環境をつくる。②児童が自身の健康に目を向け、年間を通して主体的に取り組める場として「朝比奈小健康会議」を運営する。③派遣栄養士と連携して日々の給食時間を活用した食育を進める。	①マラソン大会、長縄集会などの体力向上をめざした取組への関心が高く、実施日前に練習する姿が多く見られた。②健康会議を通して掃除時間のけが防止への取組で児童の意識が高まったが、実際にけがの防止までには至っていない。③派遣栄養士のため実施回数は限られるが、児童の関心も高く効果を上げている。	B	健やかな体	①スポーツデーやマラソン大会、長縄集会を設定し、運動に親しむ環境をつくる。②児童が自身の健康に目を向け、食の大切さを意識し、年間を通して取り組める場として「朝比奈小健康会議」を運営するとともに、給食調理員や派遣栄養士と連携して日々の給食時間を活用した食育を進める。	①年間を通して外遊びをする児童が若干増えた。マラソン大会は意欲付けとして効果が望めるが、安全面を第一に運営方法を見直したい。スポーツデーや長縄集会は継続する。②食育の取り組みには学級による差が見られた。指導計画をもとに取り組みをすすめる。	B	健やかな体	①年間を通してスポーツデーや長縄集会など休み時間に体を動かそうとする意欲を高める機会を設定する。②児童が自身の健康に目を向け、食の大切さを意識し、年間を通して取り組める場として「朝比奈小健康会議」を運営するとともに、給食調理員や派遣栄養士と連携して日々の給食時間を活用した食育を進める。	①マラソン大会や長縄大会前には休み時間に練習する児童も多く見られ、意欲付けとしての効果が高い。マラソン大会は安全面を第一に校内コースに変更した。②食育の取り組みは学級による差が大きい。アレルギーや家庭での食習慣の変化など年々難しくなっている面もあるが、指導計画をもとに学校としての取り組みをすすめる。	B
児童生徒指導	①「学校の約束」を職員で共有し、共通した指導を行う。②YPアセスメントを活用し、児童の自尊感情を育てるとともに学級づくりに活かす。また、「休み時間アンケート」を実施し、いじめの防止、早期発見に努める。③特別支援教育について教職員の理解を深め、子どもの課題解決に生かす。	①「学校の約束」をもとに指導の共通化が図れている。②休み時間アンケートによる児童の意識や人間関係把握や担任・専任間の情報共有をもとにいじめの防止・早期発見に取り組む、解決につなげることもできた。③研修の中で個々の事例についての情報も共有化できた。	B	児童生徒指導	①「学校の約束」を職員で共有し、共通した指導を行う。②YPアセスメントを活用し、児童の自尊感情を育てるとともに学級づくりに活かす。③職員研修を通して特別支援教育についての理解を深め、子どもの課題解決に生かす。	①学校の約束をもとに共通した指導を行ったが、職員間の温度差もあった。次年度は内容の見直しを含めた職員間の共通理解を再度図りたい。②YPアセスメントをさらに活用する。③グループワークの時間を十分にとるなど、研修会のすすめ方を工夫することで職員の意識が高まった。	B	児童生徒指導	①「学校の約束」を職員で共有し、共通した指導を行う。②YPアセスメントを活用し、児童の自尊感情を育てるとともに学級づくりに活かす。③職員研修を通して特別支援教育についての理解を深め、子どもの課題解決に生かす。	①学校の約束をもとに指導を行ったが、職員間のバラつきもあった。次年度は打ち合わせ等の時間に職員間の共通理解を深め、子ども等の課題解決に生かす。	B
教育環境整備	①地域・保護者と連携した「ホタル池」活動を通して、朝比奈の環境を守っていくこととする気持ちを育てる。②「裏山」で自然と触れ合う活動を教育課程に位置づけ、自然や生命を大切にすることを育てる。	①「ホタル池」と周りの自然環境を守る活動として定着している。地域の協力も大きく、希少種のトンボが生息する環境保護の視点もできつつある。②理科・生活科の学習材としての利用が多くなった。児童の情緒面への働きかけも大きく、さらに活用を図りたい。	B	教育環境整備	①地域・保護者と連携した「ホタル池」活動を通して、朝比奈の環境を守っていくこととする気持ちを育てる。②「裏山」で自然と触れ合う活動を教育課程に位置づけ、自然や生命を大切にすることを育てる。	昨年度より、土曜日の「ホタル池活動」の活動内容を精選し回数減らした。今年度は雨天による中止日が増え、予定していた環境整備が進められなかった。そのときの池の状態を総合的な学習の時間の学習課題として取りあげた学年・学級があった。裏山の環境やホタル池の生き物についての関心やそれらを大切にすることを意識している。	B	教育環境整備	①地域・保護者と連携した「ホタル池」活動を通して、朝比奈の環境を守っていくこととする気持ちを育てる。②「裏山」で自然と触れ合う活動を教育課程に位置づけ、自然や生命を大切にすることを育てる。	①職員の負担軽減として「ホタルを見るタベ」を今年度より1日の実施、土曜日の「ホタル池活動」を昨年と同じ日数とした。雨天による中止で予定していた環境整備が進められない日もあったが、環境を維持することはできた。②裏山の環境やホタル池の生き物についての関心やそれらを大切にすることは定着している。	B
学校運営協議会	①教育ボランティアの協力を得ながら読書活動を一層推進し「本好きな子」を育てる。②地域の材を活かした学習活動を通して児童の問題解決力を高めるとともに、地域を愛する児童を育てる。③年4回の学校運営協議会を通して学校と地域・保護者の連携を深めるとともに、よりよい学校づくりへの協議の場とする。	①段ボール劇団公演やお話会後の感想を児童が話したり書いたりした際の表現力が毎年向上している。②地域の公園清掃や行事への参加を通して、毎年各学年で「朝比奈」を知り、見直す活動が地域に生きる子どもたちを育てている。③学校職員が学校運営協議会に参加することで地域・保護者の思いや願いにふれることができた。	A	学校運営協議会	①教育ボランティアの協力を得ながら読書活動を一層推進し「本好きな子」を育てる。②地域の材を活かした学習活動を通して児童の問題解決力を高めるとともに、地域を愛する児童を育てる。③年4回の学校運営協議会を通して学校と地域・保護者の連携を深めるとともに、よりよい学校づくりへの協議の場とする。	①段ボール劇団公演やお話会、黄色いかが、読み聞かせなど様々な読書に関わる取り組みが児童の思考力・表現力を高めている。②公園清掃や地域行事への参加は、地域に生きる子どもたちを育てている。③学校職員が学校運営協議会に出席し活動計画立案に携わることで、地域・保護者の思いも取り入れながら児童の学習活動をすすめることができた。	A	学校運営協議会	①教育ボランティアの協力を得ながら読書活動を一層推進し「本好きな子」を育てる。②地域の材を活かした学習活動を通して児童の問題解決力を高めるとともに、地域を愛する児童を育てる。③年4回の学校運営協議会を通して学校と地域・保護者の連携を深めるとともに、地域に根ざした学校づくりへの協議の場とする。	①段ボール劇団公演やお話会、黄色いかが、読み聞かせなど様々な読書に関わる取り組みが児童の想像力と表現力を高めている。②公園清掃や地域行事への参加は児童が地域を理解するよい機会となっている。③学校職員が学校運営協議会に出席し活動計画立案に携わることで地域・保護者の思いや願いを知り、児童の学習活動に生かすことができている。	A
人材育成・組織運営	①主幹教諭を中心とした経験のある教員の指導・助言のもと、実技研修・授業参観・授業検討等実践的なメンター研修をすすめることで経験の浅い教職員の資質向上に努める。②各分掌における企画・運営に責任をもって取り組むことで組織の効果的運営力・児童指導力・危機管理対応能力などを育成する。	①計画的な職員研修により、児童理解力等が高まった。メンター研修も年間の見直しをもって効果的に実施できた。②職員数が少ない中、運動会や宿泊体験学習等の学校行事で職員一人一人が役割を果たすことにより協力し合い、円滑な学校運営ができた。	A	人材育成・組織運営	①主幹教諭を中心とした経験のある教員の指導・助言のもと、実技研修・授業参観・授業検討等実践的なメンター研修をすすめることで経験の浅い教職員の資質向上に努める。②各分掌における企画・運営に責任をもって取り組むことで組織の効果的運営力・児童指導力・危機管理対応能力などを育成する。	①多くの職員がメンター研修に関わり、効果的に取り組むことができた。②職員数が少ない中、運動会や宿泊体験学習等の学校行事で職員が協力し、円滑な学校運営ができた。	B	人材育成・組織運営	①主幹教諭を中心とした経験のある教員の指導・助言のもと、実技研修・授業参観・指導法研修等実践的なメンター研修をすすめることで経験の浅い教職員の資質向上に努める。②各分掌における企画・運営に責任をもって取り組むことで組織の効果的運営力・児童指導力・危機管理対応能力などを育成する。	①多くの職員がメンター研修に関わり、積極的にすすめることができた。②職員数が少ない中、様々な場面で職員が協力し、学校運営ができた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	①共通に取り組んでいる「あいさつ運動」は、児童間や教師への挨拶ができるようになってきているが、学校への訪問者や学校外についてはまだ指導が必要である。②児童生徒交流はお互いに目的意識をもって進めることができ、中学生が運動会で演じたリレーの姿などを数年後の自分の姿とらえて目標とする児童もみられる。もっと交流を増やしてほしいという保護者の意見があるが、小中の物理的な距離と複数の小学校が関わることから今後の検討課題である。			ブロック内相互評価後の気付き	①「あいさつ」については、各学校で熱心に取り組んでいる。少しずつ成果が見られるようになった。特に中学生になるとよくあいさつするようになるが、それは小学校での取り組みが土台となっている。②児童生徒交流日は、中学校の方で弾力的な計画を立ててくれたので、無理なく充実した時間を過ごせることができた。③年に1回、輪番で行っている公開授業(本年度は本校)は、各教科・領域に分かれて授業後の協議会を行ったが、1つの協議会に集まる教員の人数が少なく、話し合いに深まりが感じられなかった。もっとテーマを絞り、公開する学級数も減らすと、1つの協議会の人数をふやして話し合いができるようになってほしい。		ブロック内相互評価後の気付き	・今年度、合同授業研究会(六浦南小)の形式を変え、全教科・領域の公開から、6教科に絞って公開した。その結果、一つ一つの教科・領域ごとの話し合い、協議会の内容はとても深まりよかった。・通学路の安全性について、中学校ブロックでは、暗くて危険な箇所もある。そのような場所を小中で共通理解を、子どもたちの安全に努めていく。・中学校ブロックで身に付けさせる資質・能力について、各小学校の資質・能力を明らかにしたうえで、来年度、話し合っていく。			
学校関係者評価	・運動会などの行事でみられる職員の動きは良い。人材育成はうまくいっていると考えられている。・学校外の挨拶ができていない。児童に対して地域の大人が先に挨拶をしていくことも必要だが、学校でも指導を継続してほしい。・教師の勤務時間について長すぎるという報道等を耳にする。管理職がきちんと実態を把握してほしい。			学校関係者評価	・学校外の挨拶はまだ半分程度である。基本的には家庭のしつけだが、学校でも指導を継続してほしい。・保護者の関心が低くなっているように感じる。両親ともに仕事をもつ家庭が増え忙しいことはわかるが、田植えや稲刈りなど手がほしい作業に協力してくれる保護者が少なく、教員に負担をかけているように思う。・生きる力を育てる教育を今後も継続してほしい。教えずきないことも必要だと考える。		学校関係者評価	・朝、登校の様子を見守っているが、子どもたちの挨拶がかえってくるようになった。自分から挨拶ができるようになるとさらによい。・公園の樹木名板に、子どもたちの名前を記載する件については、個人情報の観点から載せないようにするのは理解できるが、地域としては、載せてほしい。・市民図書室によるダンボール劇団やお話会後に子どもたちから聞く感想の内容がとても高まっている。読書活動の取り組みを継続してきた結果だと思う。			
学校経営中期取組目標振り返り	あさひなパワーアップや言語活動・体験活動を取り入れた授業展開は継続し、基礎・基本の力の確実な定着を図る。29年度も引き続き算数科学習指導の研究を中心に教師の指導力向上をめざす。確実な指導要領実施にかかわる高学年の授業時数増については今後考慮していく必要がある。人権週間の取組である人権標語づくりに各学級のクラス目標が生かされている現状から、豊かな心の育成については日々の指導を継続する。学校運営協議会と連携し、ホタル池活動や読書活動の充実で、思考力・表現力・判断力や想像力・郷土愛を育む。			学校経営中期取組目標振り返り	次年度は今年度と同様の週授業時数・日課で行う。確かな学力は、あさひなパワーアップや言語活動の充実、体験活動を取り入れた授業展開を継続し、基礎・基本の力の確実な定着を図る。30年度も引き続き新学習指導要領による資質・能力の育成に着目した研究を中心に教師の指導力向上をめざす。豊かな心については、いじめの防止を最優先に情報の収集と共有を行うとともに日々の指導を継続する。学校運営協議会と連携し、ホタル池活動や読書活動の充実で、思考力・表現力・判断力や想像力・郷土愛を育む。		学校経営中期取組目標振り返り	安心・安全な学校をめざして教職員は「わかる授業」「コミュニケーション能力の育成」「危険予防」に取り組んできた。特に「わかる授業」では、これまでの学習内容中心の授業から資質・能力の育成に目を向けた授業に取り組んできた。資質・能力をペーパーテストで測ることはできないが、今年度の横浜市学力・学習状況調査を実施した際に作問者の出題の意図と日々の授業で大切にしてきたことが一致したという担当の声が複数あった。これは大きな成果であると考えられる。引き続き保護者・地域と連携し、学校教育目標実現に向けて取り組むたい。			